

【ほうきづくり】(ほうき草使用)

新見市哲多町

5月20日頃、ほうき草を田畑に植えると、お盆前後に穂が出る。
9月のお彼岸の頃、穂が出て青みがあるうちに刈る。
1ヶ月干し、束ねて穂首の部分を針金で巻いて長さを調節し、柄の部分を作る。
毎年作り、庭ほうきとして使用している。



知恵と技

【お手玉】

新見市草間

端布を握りやすい大きさにつなぎ合わせ、
乾燥した大豆や小豆、そばの実などを中に入れる。



【袋背負い】(がま細工)

新見市千屋

10月初めにガマを刈り、1ヶ月陰干しする。
干し上がったらナイロンひもで好みの大きさ
の袋を編む。
毎年作り、農作業に活用している。

【い草製品】

早島町

真冬に植え付け、真夏に刈り取られるい草。
染色したい草で美しい模様を織り込む花苴「花ござ」。
短い草を中ほどで継いだ中継表は、
「早島表」の名を残しています。



【しめ縄飾り】

高梁市有漢町

わらは穂が出る前の青いものを収穫し、
よく陰干したものがよい。
しめ縄に飾る
だいたいは代々栄えるように、
昆布は喜び、
うらじろは二枚舌を使うなという意味がある。



【竹細工】

真備町

太く、白く、やわらかい真備町のたけのこは、
食べるだけでなく、「節」を使い
コップや花瓶にしたり、木べらやスプーン等、
生活用品として活用できる他、
飾りや、表札などにも加工しています。

【コトコト馬】

高梁市有漢町

乾燥した稲わら200gで口、頭、前足、胴体、後足、しっぽの順に作って、
稲ワラをきれいにそぐり(整え)、槌で打って柔軟にしておく。
結婚式、還暦祝い等に当家に飲品として送っていた。
部落内、近隣の若者たちが作り、
夜、酒宴が始まると縁側に置いて、コトコトたたくと、
陰で見ている当の方が気づいて、お酒、ご馳走を引替えに置き、
ワラ馬を床に祭り、幸多かれと祈るという昔からの伝統行事です。

